

令和4年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和4年12月 (平成26年から毎年12月に実施)

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校	2,705人 (抽出率5.6%)	}	合計 6,878人 (抽出率5.4%)
中学校	2,606人 (抽出率5.4%)		
高等学校	1,567人 (抽出率5.0%)		

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホとは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE、Twitter、Instagram、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。

ここでは、県民の皆様に、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

令和5年5月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

(1) スマホ等の利用状況について

〈概要〉 ※以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

① スマホの所持率

自分のスマホを持っている割合は、小47.0%、中78.3%、高99.4%であり、小・中で増加傾向である。

② スマホの長時間利用の割合

「平日1日に、平均3時間以上」学習の目的以外でスマホを利用している割合は、小19.2%、中25.0%、高33.7%であり、前年度より中・高で減少しているものの、小で増加している。

③ 情報端末(スマホ、パソコン、タブレットなど)の学習への活用

- ・情報端末を学習に利用している割合は、小80.8%、中84.3%、高82.5%であり、全国と比較すると、全校種でその割合は高い。
- ・学習に利用する目的は、「学習で分からないことを調べる」、「学習ソフトやアプリの活用」、「動画でスポーツや楽器の実技を見る」などであり、広く活用されている。また、学校種が上がるにつれて、「友人等と学習について情報交換する」割合が高くなっている。

④ インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスの利用

- ・ネットやコミュニケーションサービスを利用している割合は、小85.7%、中93.6%、高97.4%である。
- ・小ではゲームや音楽・動画鑑賞、中・高では音楽・動画鑑賞や連絡・通話の割合が高い。

① 自分のスマホを持っているか

◆「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	R2	R3	R4	対R3 増減	R4対象数：人
小	42.0	44.9	47.0	+2.1	2,641
中	71.8	75.3	78.3	+3.0	2,533
高	99.0	99.5	99.4	-0.1	1,493

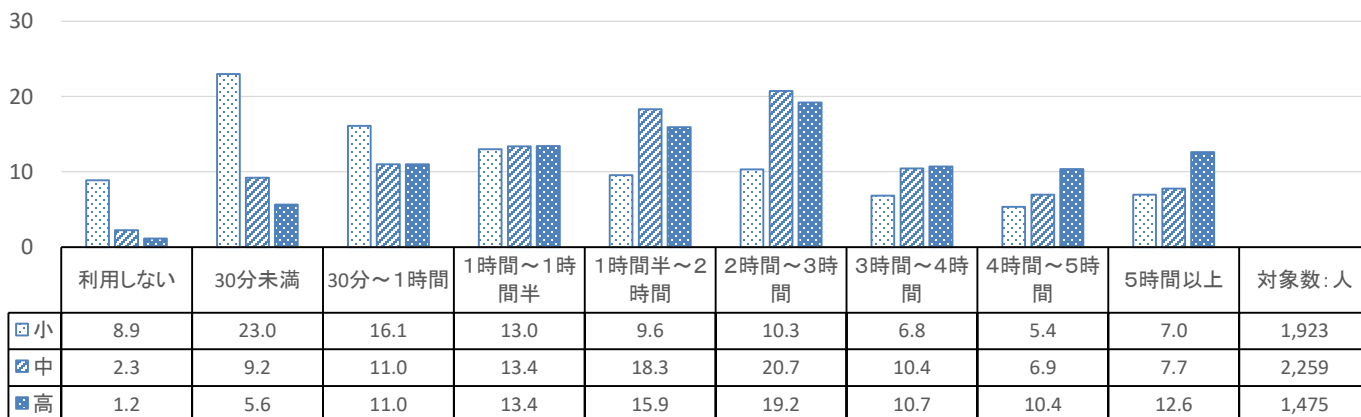
※ 学年別のスマホの所持率(R4)

・小4	43.5%	小5	45.0%	小6	52.5%
・中1	71.8%	中2	81.9%	中3	81.8%
・高1	99.2%	高2	99.6%	高3	99.4%

② 平日1日当たり、どれくらいスマホを利用しているか ※学習の目的で利用している時間は除く

◆ 平日1日当たりのスマホの利用時間別割合(%)

<自分専用のスマホを持っている又は家族のものを借りて使っている児童生徒の回答>



※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

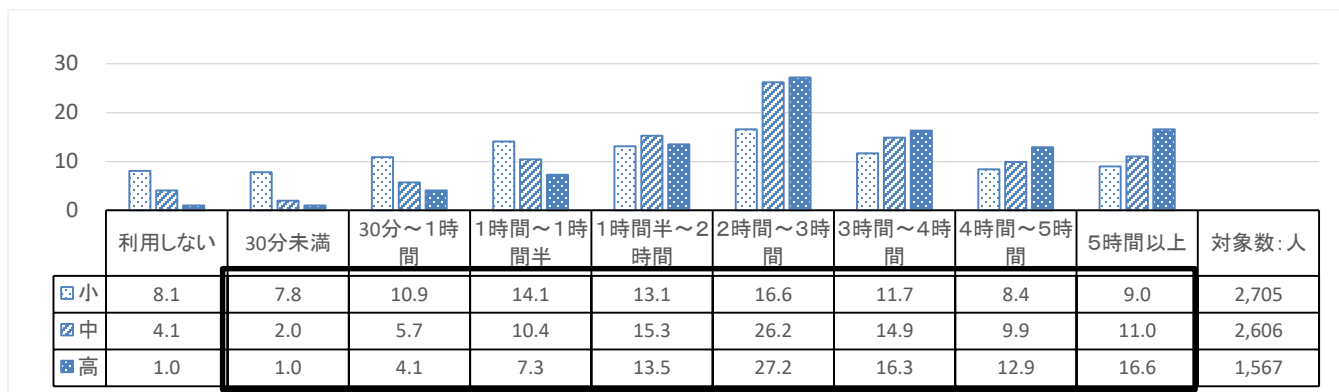
◆ スマホの利用時間の合計が「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)
 <自分専用のスマホを持っている、または家族のものを借りて使っている児童生徒の回答>

	R2	R3	R4	対R3増減	R4対象数：人
小	13.3	14.2	19.2	+5.0	1,923
中	20.9	28.2	25.0	-3.2	2,259
高	39.1	39.6	33.7	-5.3	1,475

③ 情報端末の学習への活用

◆ 平日1日当たりのスマホ、パソコン、タブレットの利用時間別割合(%) ※学習の目的で利用する時間を含む。

<本調査の回答者全員が対象>



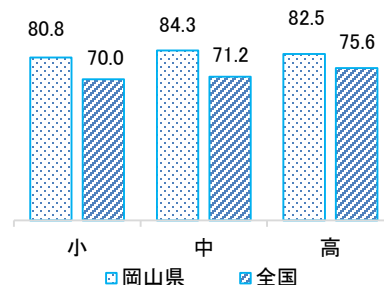
※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホやパソコン、タブレットの学習への利用の有無の割合(%)

<スマホなどを利用すると回答した児童生徒が対象>

	学習に利用する				学習に利用しない
小	80.8				19.2
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	57.2	18.1	3.3	2.2	
中	84.3				15.7
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	70.5	11.3	1.5	1.0	
高	82.5				17.5
	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	
	67.1	12.5	2.0	0.9	

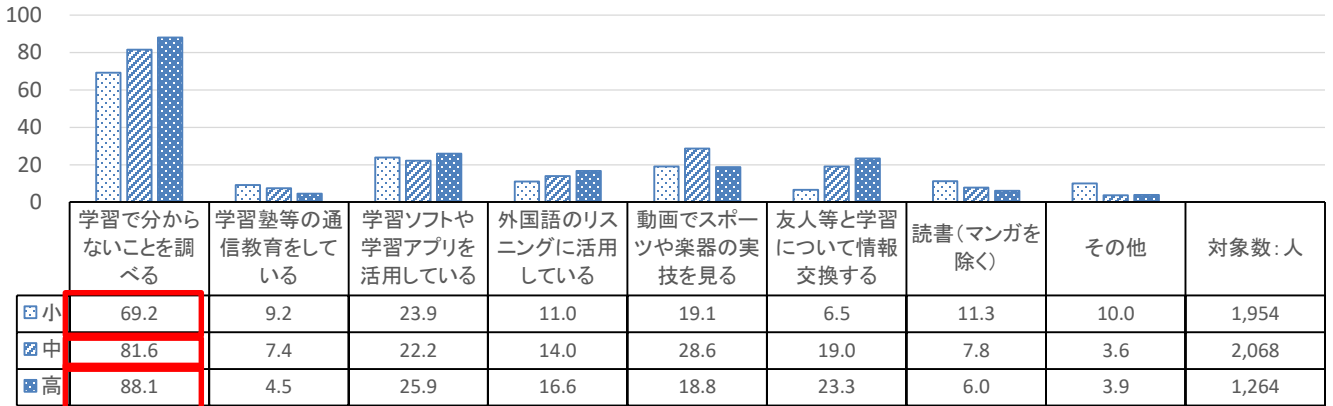
<参考> スマホ等の学習への利用の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果【内閣府 R5.3】による。

◆ どのようにスマホやパソコン、タブレットを学習に利用しているかの割合(%)【複数回答】

＜スマホなどを学習活動に活用すると回答した児童生徒が対象＞

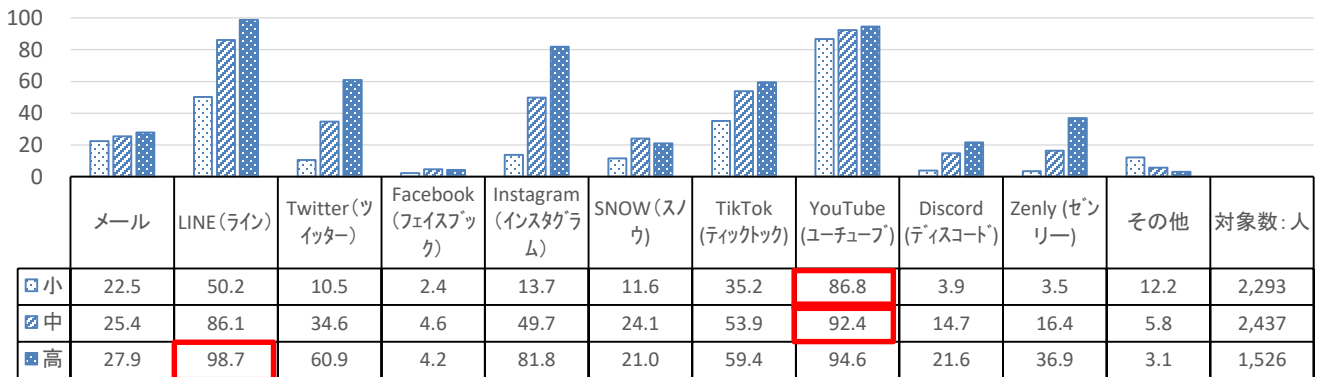


※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

④ ネットやコミュニケーションサービスの利用

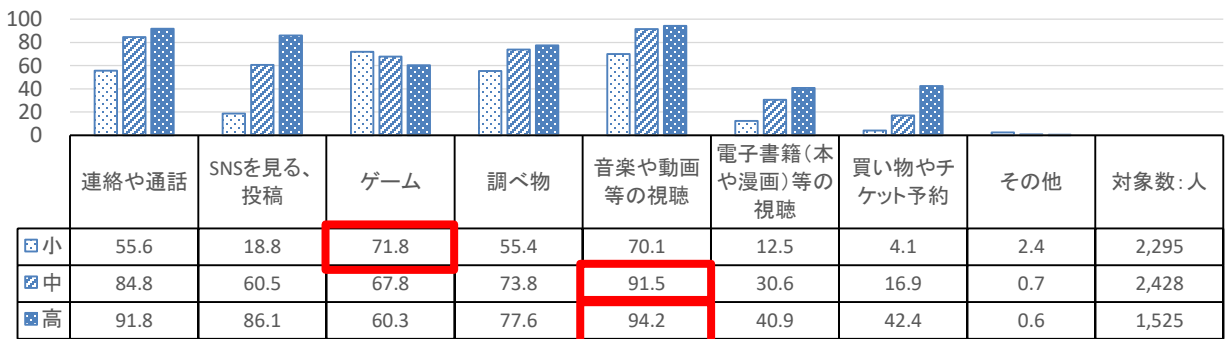
◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】

＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒(小学生85.7%、中学生93.6%、高校生97.4%)の回答＞



※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

◆ サービスで何をやるかの割合(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>



※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小7.3%、中6.9%、高5.0%であり、前年度より、全校種で減少している。

② 「悩みや不安を感じている」割合

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は、小9.5%、中12.1%、高9.2%であり、前年度より、中・高で減少している。

③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小42.0%、中43.6%、高36.6%であり、前年度より、小・中で増加しているものの、高で減少している。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

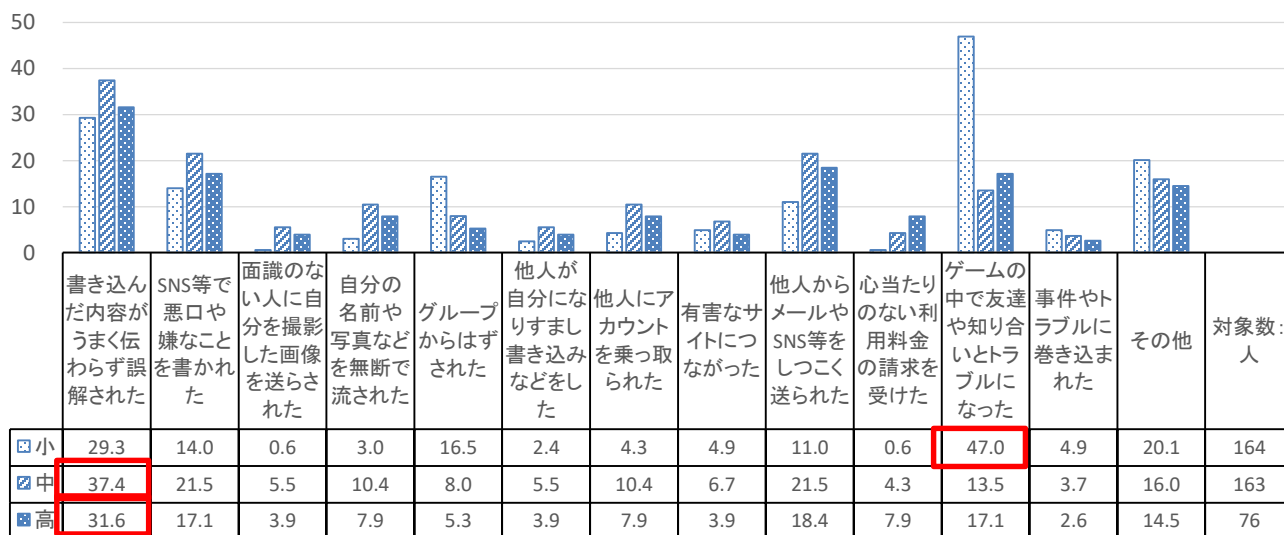
◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

〈 ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答〉

	R2	R3	R4	対R3増減	R4対象数：人
小	10.4	8.3	7.3	-1.0	2,283
中	7.8	8.9	6.9	-2.0	2,419
高	6.8	6.8	5.0	-1.8	1,522

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

〈 ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答〉



※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

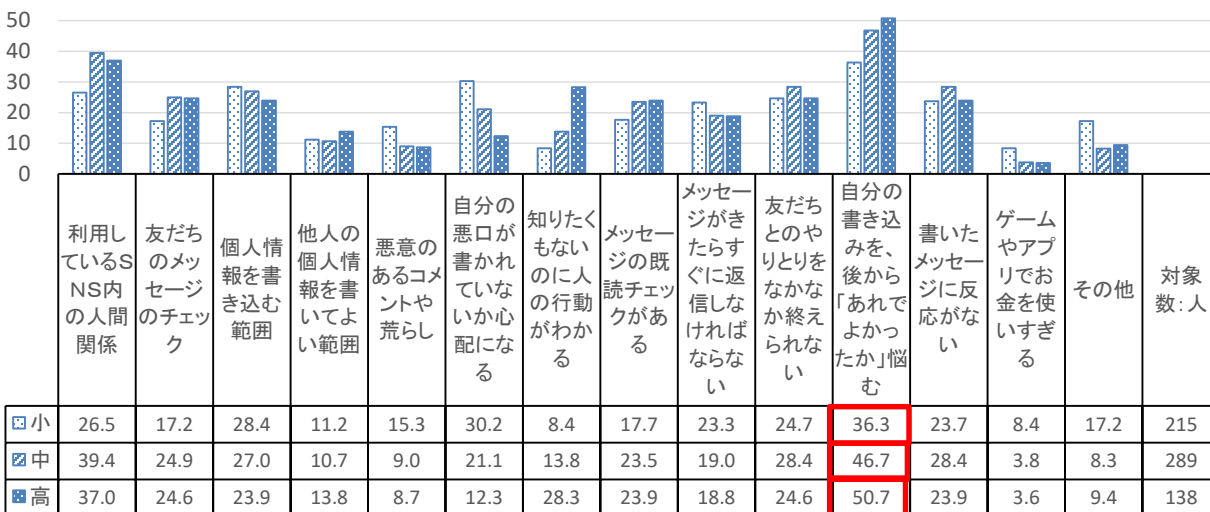
② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	R2	R3	R4	対R3増減	R4対象数：人
小	15.7	9.5	9.5	±0	2,262
中	23.2	12.4	12.1	-0.3	2,420
高	21.6	10.4	9.2	-1.2	1,516

◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】

<ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある児童生徒の回答>



※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。

③ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%) <自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答>

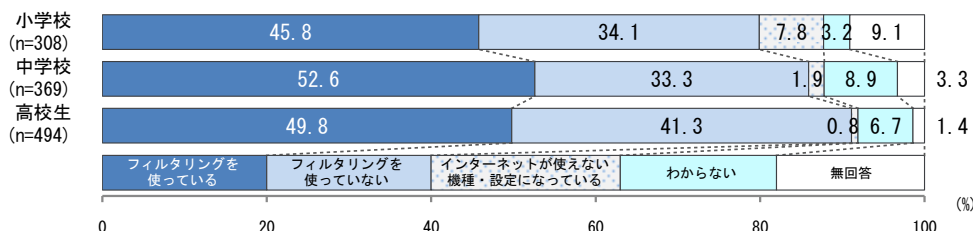
※ ()は昨年度比

	R2	R3	R4		R4対象数：人	
	設定している	設定している	設定している	設定していない		
小	38.0	41.9	42.0 (+0.1)	17.7	40.3	1,230
中	42.8	39.9	43.6 (+3.7)	22.7	33.7	1,982
高	37.3	37.8	36.6 (-1.2)	36.6	26.8	1,484

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

<参考> 保護者対象：スマートフォン、タブレットなどのフィルタリングの利用状況調査

「青少年の意識等に関する調査報告書」(R3.3 岡山県)による。



※ 「n」は、パーセントを計算するときの母数となる回答者数を示している。

(3) スマホの利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概要 〉

① 家庭のルールの有無

・スマホの利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小57.8%、中51.6%、高21.2%であり、前年度より、高で増加、小・中で減少しているが、「自分の決めごとはある」と答えた割合を含めると、小71.6%、中69.0%、高41.4%であり、一定のルールに基づいてスマホを利用している児童生徒の割合が小・中で高いことがうかがえる。

・「ペアレンタルコントロールを利用している」と答えた割合は、小31.9%、中30.8%、高10.9%であり、前年度より、全校種で増加している。

② 家庭のルールの内容

ルールの内容については、全ての校種で、「知らない人からのメール等に返信しない」が多く、中・高では「他人が傷つくような書き込み等はない」、小・中では「使う時間について決めている」、小・高では「困ったときは保護者に相談する」も多い。

③ 危険性等の学習の状況

スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、小84.7%、中95.7%、高96.6%であり、全国と比較すると、全校種でその割合は高い。中・高では高い水準を維持しているが、小は前年度より減少している。

① スマホの利用に関して家庭のルール等が設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%)

< 普段からネットやSNSを利用している児童生徒の回答 >

※ ()は昨年度比

	R2	R3	R4			R4対象数: 人
	ある	ある	家庭のルールがある	自分の決めごとはある	ない	
小	61.6	64.9	57.8 (-7.1)	13.8	28.4	2,270
中	52.0	52.0	51.6 (-0.4)	17.4	31.0	2,412
高	25.6	21.0	21.2 (+0.2)	20.2	58.6	1,518

◆ ペアレンタルコントロールが利用されている児童生徒の割合(%)

< 自分専用のスマホを持っている児童生徒の回答 >

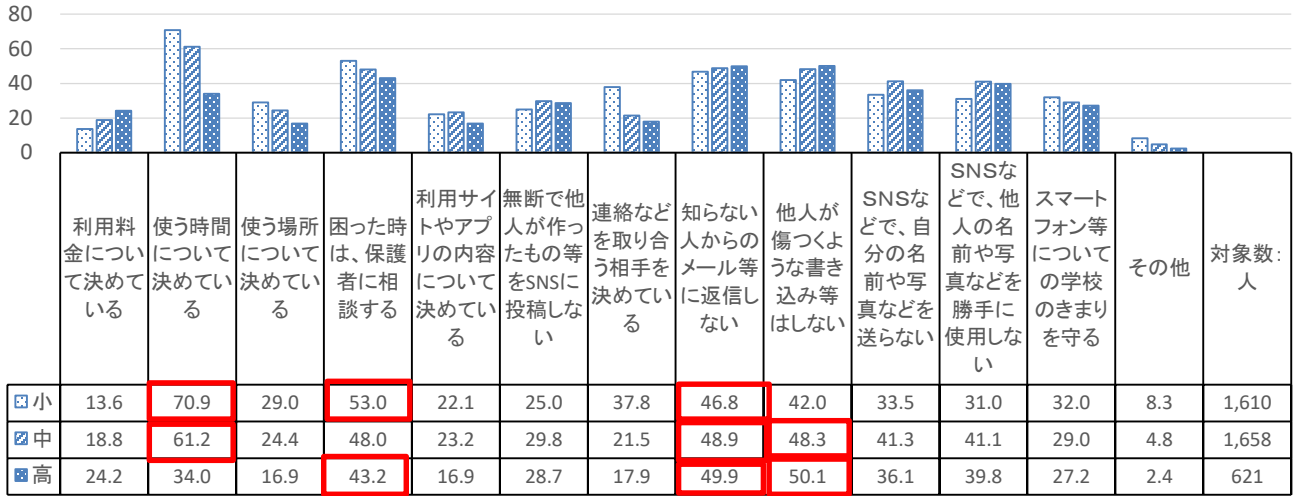
※ ()は昨年度比

	R2	R3	R4			R4対象数: 人
	はい	はい	はい	いいえ	不明	
小	23.8	30.3	31.9 (+1.6)	38.8	29.3	1,233
中	23.5	25.5	30.8 (+5.3)	48.8	20.4	1,977
高	8.8	10.3	10.9 (+0.6)	73.2	15.9	1,482

② どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%)

<スマホの利用に関して家庭や自分のルールが設定されている児童生徒が回答>
 ※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



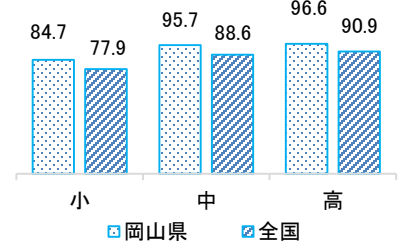
③ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	R2	R3	R4			R4対象数：人
	ある	ある	ある	ない	不明	
小	85.5	89.5	84.7 (-4.8)	7.6	7.7	2,671
中	94.7	95.9	95.7 (-0.2)	2.2	2.1	2,586
高	96.4	96.7	96.6 (-0.1)	1.6	1.8	1,562

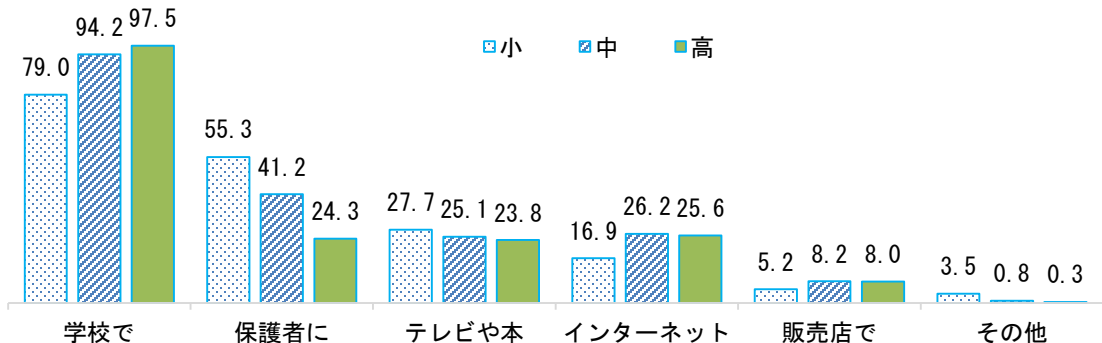
<参考> スマホ等の危険性の学習の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境実態調査結果【内閣府 R5.3】による。

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>



【参考】 ネット依存傾向について〈令和4年度岡山県学校保健概要調査(R4.12)から〉

○ネット依存〈アメリカ心理学者 キンバリー・ヤング(1965-2019)〉

「インターネットに過度に没入してしまうあまり、コンピューターや携帯が使用できないと何らかの情緒的苛立ちを感じることで、また実生活における人間関係を煩わしく感じたり、通常の対人関係や日常生活の心身状態に弊害が生じているにも関わらず、インターネットに精神的に嗜癖してしまう状態」

【ネット依存傾向チェックシートの概要】－保健体育課－

◆小学生:簡易版8項目※○の数で判定

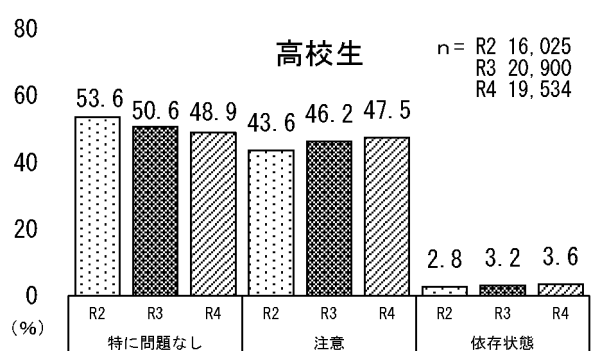
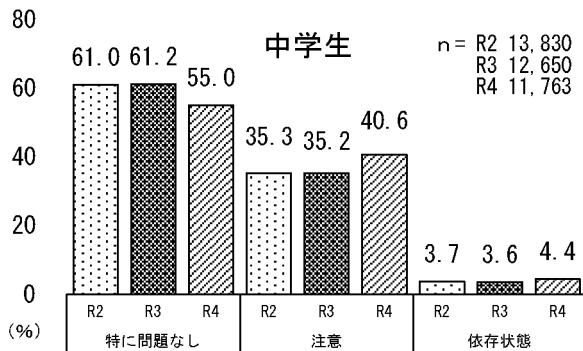
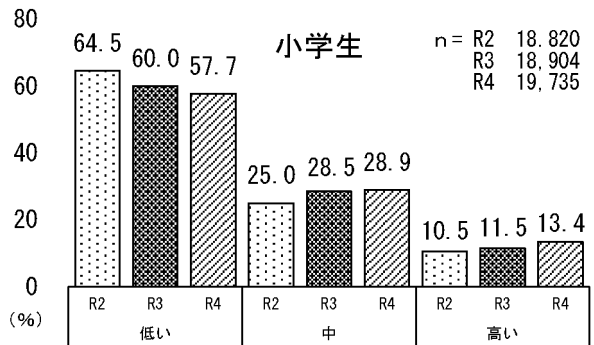
低い:0~2個 中:3~4個 高い:5~8個

◆中・高校生:詳細版20項目※各項目5点の点数化で判定

総得点①特に問題なし:20~39点

②注意:40~69点

③依存状態:70~100点



◆簡易版8項目(小学生)

◆詳細版20項目(中・高校生)

①ネットに夢中になっていると感じることがある。	①気がつくと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
②満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。	②長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
③ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがたびたびある。	③家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
④ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。	④ネット等を介して、新しく知り合い(友人を含む)を作ることがある。
⑤使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。	⑤まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
⑥ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危うくすることがある。	⑥ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
⑦ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やそのほかの人たちに嘘をついたことがある。	⑦ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある。
⑧自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。	⑧他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE(ライン)やTwitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、メールなどをチェックすることがある。
	⑨人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
	⑩日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
	⑪気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
	⑫ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
	⑬ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
	⑭夜遅くまでネット等に関ることが原因で、睡眠時間が短くなっている。
	⑮ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
	⑯ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
	⑰ネット等をやる時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
	⑱ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
	⑲誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
	⑳ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

(独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より)

(4) 成果と課題

(成果:○ 課題:▲)

- 「ペアレンタルコントロールを利用している」割合は、全校種で増加している。
- ＜小＞ R3: 30.3% → R4: 31.9% ＜中＞ R3: 25.5% → R4: 30.8%
＜高＞ R3: 10.3% → R4: 10.9%
- 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることもある」割合は、中・高で減少している。
- ＜小＞ R3: 9.5% → R4: 9.5% ＜中＞ R3: 12.4% → R4: 12.1%
＜高＞ R3: 10.4% → R4: 9.2%
- 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたこともある」割合は、全ての校種で減少している。
- ＜小＞ R3: 8.3% → R4: 7.3% ＜中＞ R3: 8.9% → R4: 6.9%
＜高＞ R3: 6.8% → R4: 5.0%
- ▲ 「スマホやネットの危険性を教えてもらったり、学んだこともある」割合は、全校種で全国より割合が高く、中・高では95%以上の高水準を維持しているが、小で減少している。情報モラル教育の実施についての啓発に努める必要がある。
- ＜小＞ R3: 89.5% → R4: 84.7% ＜中＞ R3: 95.9% → R4: 95.7%
＜高＞ R3: 96.7% → R4: 96.6%
- ▲ 「平日1日に、平均3時間以上スマホを利用している」割合は、中・高で減少しており、長時間利用の課題に対する取組に一定の成果が見られる。一方で、小では増加しており、引き続き利用時間や内容等の把握に努めていく。
- ＜小＞ R3: 14.2% → R4: 19.2% ＜中＞ R3: 28.2% → R4: 25.0%
＜高＞ R3: 39.6% → R4: 33.7%
- ▲ 「家庭のルールがある」割合は、小で減少している。「自分の決めごとはある」と答えた割合を含めると、一定のルールに基づいてスマホを利用する児童生徒の割合は高いものの、家庭でのルールを子どもと話し合いながらつくるなど、保護者への啓発を更に充実させる必要がある。
- ＜小＞ R3: 64.9% → R4: 57.8% ＜中＞ R3: 52.0% → R4: 51.6%
＜高＞ R3: 21.0% → R4: 21.2%

(5) 今後の取組

(政令指定都市である岡山市を除く)

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

① 児童生徒の主体的な活動の促進

スマホサミット等により、情報端末の学習や、日常生活におけるアプリ等の有効活用に関する協議・取組やスマホやネットの適切な利用を促進する。

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・ 中核教員の養成研修を経た教員を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施する。
- ・ 校内研修資料を作成し、各校に提供する。
- ・ 各校の生徒指導担当者等を対象とした県教委主催の研修会において、スマホ等の利用の実態を周知し、教科指導の場面だけでなく、外部講師の出前授業を行い、各校において情報モラルを育成する教育の推進と充実を図る。
- ・ 警察と連携した「非行防止教室」により、SNS等による犯罪被害やいじめ等の実例を交えた授業を推進する。

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・ 家庭学習の充実を図るために、保護者に提示している家庭用資料の改訂を行い、その中でタブレット端末の活用についての留意点を記載し、家庭での端末利用に関するルールづくりについて啓発を進める。
- ・ リーフ「スマホ購入 虎の巻！」や、事業者別・機種別にペアレンタルコントロールの設定の仕方を解説した動画資料「わが家のスマホアクション」を入学説明会や保護者面談等で周知・活用するとともに、新たに、主に小の保護者向けに家庭のルールづくりに関するチラシを作成し、啓発の一層の充実を図る。
- ・ ルールづくりに関する参加型のワークショップ(利用時間制限やアプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等)を実施する。
- ・ 「ぱっちり！モグモグ」生活リズム向上キャンペーンの中で、学校と家庭の連携による、スマホ・ネットの適切な利用に関する取組を推進する。また、好事例を活動資料で紹介する。

④ スマホを含む情報端末の学習への活用を推進

- ・ 県総合教育センターHPで紹介している教職員のICT活用指導力向上のための「教育の情報化ユニット研修(GIGA端末導入期編31項目)」に加えた「教育の情報化ユニット研修プラス(授業づくり編4項目)」の動画資料に新たに1項目を追加した(計5項目)ところであり、今後も具体的な活用方法を示していくことで、スマホを含む情報端末の学習への活用を推進する。

スマホ・ネット問題総合対策の推進

(政令指定都市である岡山市を除く)

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等



子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

現状と取組の目標指標

○家庭でのルールづくりの促進 (家庭でのルールがあると答えた割合)

R1実績 小(61.9%) R4実績 小(57.8%) R6目標値 小(65%)
(目標設定時) 中(49.4%) ⇒ 中(51.6%) ⇒ 中(55%)



学校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及 【教育委員会】

- 『OKAYAMAスマホサミット2023』の開催
 - ・ 中学校部会、高校部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
 - ・ 保護者部会の開催による、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
 - ・ 成果報告会(11月)の開催
※教職員・保護者対象

ネット依存への対策

継続・成果普及 【教育委員会】

- ネット依存の未然防止や早期対応
 - ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
 - ・ 教職員への研修の充実

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

継続 【教育委員会】

- 悩みや不安を抱えた時の匿名相談アプリ活用事業
 - ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめや悩み等を相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

実態把握に基づく対応の推進

継続 【教育委員会】

- スマートフォン等の利用に関する実態調査
 - ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用
- 学校保健概要調査
 - ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

- 保護者研修の充実
 - ・ PTA指導者研修等で子どもをめぐるスマホ・ネット問題についての学習機会を確保し、単位PTAでの取組を促進
 - ・ 啓発資料や「わが家のスマホアクション」等を活用し、ペアレンタルコントロールの重要性や設定方法を周知
 - ・ 入学説明会や就学時健診で「親育ち応援学習プログラム」等の参加型ワークショップで実施し、スマホ・ネットの適切な利用や家庭でのルールづくりを促進
 - ・ スマホ・ネット問題に関わるPTA活動の好事例を収集し、活動資料で紹介
- 地域住民等への啓発活動の推進
 - ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
 - ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

連携

連携

関係機関等と連携した対応

継続

- 『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』
 - ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進 【子ども家庭課】
- 『非行防止教室』
 - ・ SNS等に起因する犯罪被害や非行、いじめ等の実例を交えながら適正利用やフィルタリングの重要性、携帯電話業者と合同した授業を推進 【県警本部少年課】
- ネットパトロール 【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築